早稲田大学

[商学部①]
受験方式・志願者推移・入試問題分析

受験方式

一般選抜		教科	満点	英	国	日	世	政	数IA	数IIB	他	備考
商	〈地歴・公民型〉	3	200	80	60	(60)	(60)	(60)	-		-	
	〈数学型〉	3	180	60	60	-	-	-	60		-	
英語4技能テスト利用型		教科	満点	英	国	日	世	政	数IA	数IIB	他	備考
商		3	205	80	60	(60)	(60)	(60)	(60)		5	[他]外検：出願資格＋得点加点（最大5点）

志願者推移（数値は集計日時点による）

※志願者割合は各年度の志願者÷定員の値を比較（△:増加% ▼:減少%）

一般選抜		20'定員	20'志願者	21'定員	21'志願者	志願者割合	備考
商	〈地歴・公民型〉	455	11,415	355	8,537	▼13%	
	〈数学型〉			150	2,518		
英語4技能テスト利用型		20'定員	20'志願者	21'定員	21'志願者	志願者割合	備考
商		―	―	30	250	―	外検利用入試は21年度からの新方式

入試問題分析

英語

入試問題分析

形式、レベルとも例年と同じ。会話問題：beat around the bush「遠回しに言う」などの慣用表現が出題されていた。会話特有のこうした表現を覚える必要がある。長文問題：早慶レベルにおいても標準的と言える。パラグラフリーディングを意識しながら読み進めて設問にあたればよい。

現代文

入試問題分析

大問一題(全11問・記述+マーク)、論説文。
出題形式は①：漢字問題(記述)／②：傍線読解問題(選択)／③：空欄補充問題(選択,抜き出し,自由記述)／④：内容一致問題／⑤：ディスカッション問題。

⑤が新傾向で、複数の生徒によるディスカッションの内容を課題文と照合させる問題。本学部では20年度もベン図を活用した問題を出題するなど、新傾向問題への意欲が強い。共通テスト対策なども活用し、様々な出題形式に慣れておくことが有効。早稲田(文・教育)など他学部の過去問演習も有効。

古典

入試問題分析

古文は、単語・文法問題は基礎～標準レベルの問題が大半。解釈問題も単語＋文法で選択肢の絞り込みが可能。傍線部内に「指示語」があれば、指示語を特定することで正解に近づける。本学部では、和歌に関する設問が頻出なので、和歌の修辞法などは理解を深めておきたい。漢文は、返り点・書き下し文・解釈問題ともに、基本語句と句形を理解していれば解ける問題が大半である。本学部の設問数は3問とかなり少なく、設問レベルも標準的である。

日本史

入試問題分析

中世から近現代の選択・記述問題と近現代の選択・記述問題と論述問題が出題された。昨年までの20～40字の記述から、今年度は80字の記述へ変化した。とにかく問題数が多いので、正確にすばやく解く必要がある。記述問題では一部日本史の範囲を逸脱した悪問が出題されているが、それを取れないでも基本知識で合格点は取れる。

世界史

入試問題分析

例年通り、大問数は4題。全部で50問、4択空欄補充と正誤判定問題が中心。最後の大問だけは記述式空欄補充問題13問と100字論述1問。論述問題（100字）が出題されるが、1990年代のインド（2018年度）、1980年代のアメリカ（2019年度）、2015年のイギリス（2020年度）と、戦後史の中でもごく最近の時代を出題していたが、2021年度は、1960年代後半のアメリカ（公民権運動を踏まえた共和党支持者の増大の背景）が主題だった。正誤判定問題の出題数は減少傾向にあったが、本年度は3年連続となる 11 問。2021年度は文化史にかかわる問題が50問中11問と多かった。2021年度は、寛容法、ジョン=アダムズ、ブラック=ライヴズ=マター（BLM、Black Lives Matter）などハイレベルな用語が出題されていた。

文化史は、2019年度50問中1問、2020年度は50問中2問と少なかったが、2021年度は50問中11問に増加。商学部だけに、商業、商人の活動、税制、貨幣・通貨体制を意識した問題が多く含まれる。2020年度も財務総監コルベールの重商主義、シャーマン反トラスト法、国債、スムート＝ホーリー関税法、多国籍企業、産業の空洞化、リーマン＝ブラザースなど、商業に関係する用語が出題された。2008年の国際金融危機（リーマン＝ブラザーズ破綻）、2009年のゼネラルモーターズの倒産、2010～11年のアラブ政変など、21世紀も狙われるので注意が必要。

©2021増田塾

入試問題分析

政治経済

入試問題分析	昨年と同様、空欄穴埋めや正誤・選択問題については通常の学習でカバーできる問題が多くを占めていた。一方で、昨年は論述問題が2題出題されていたが、今年は出題がなかった。また、数学的な思考力を問う計算問題については昨年と同様に出題されたものの、問題自体は短時間で解けるものが多かった。そのため、昨年に比べて難易度は低下したと思われる。通常の学習でカバーできる問題が多くを占めており、基本事項についての正確な知識が要求される。論述問題については、100字を超える問題が見られるため、日頃から字数の多い問題を解いて訓練しておく必要がある。計算問題については、分量が多く難易度も高いため、問題演習を通じて様々なパターンに慣れるとともに、数学的な思考力を養うことが必要となる。

数学

入試問題分析	昨年度よりは易化したとはいえ、相変わらず私大文系トップレベルの難易度。大問１の空所補充形式であっても、他大学では大問1つ分くらいの分量、難易度である。90分と試験時間は長いため「自分が解ける問題」を正確に見極め、「粘れる問題」に時間を使えるかが勝負の分かれ目となる。 私大文系の中では別格の難易度。基本問題はほぼ出題されず、意図の読み取りづらい問題が出題されることが多い。難易度が高い問題であっても、しっかりと実験を行い、考察をしていくことが重要。

2021/4/1 更新

©2021増田塾